

応用統計学	確率・統計の基礎知識を修得し、統計的データ処理への応用力を養うことを目的に講義する。 授業では、可能な限り応用問題に関する課題を与えて理解を助け、実データを読み、相関を見だし、推定を求め、変化が読めるようにする。	知識・理解の観点： 1. 確率統計の基本事項が理解できる。 2. 実用問題に対して得られる解の意味づけが理解できる。 3. 与えられた条件が変更になった場合にも応用できる。 思考・判断の観点： 1. 解の導出過程が説明できる。 2. 得られる解の意義が説明できる。 3. どのような応用が可能となるか説明できる。 関心・意欲の観点： 1. 予習、復習を助けるためのプリントなどを準備する。 2. パワーポイントなどの視覚的なツールの利用により、わかりやすいプレゼンテーションを心がける。 態度の観点： 1. 授業時間に遅れたり、授業中に居眠りをしたり、授業に関係のないレポートを作成したりしないこと。 2. 不明な点は授業中、授業後に積極的に質問すること。 3. 授業中に必ずメモをとるように心がけること。 その他の観点： 1. 予習、復習を心がけること。									
システム工学	まず情報化社会の状況、情報システムの機能、情報技術者の課題についてごく簡単に要約する。その上で、社会システムを含むシステム一般を対象としてその計画と管理のために有用となるシステム手法および経営科学の手法(オペレーションズリサーチの手法、または単にOR手法ともいう)を中心に講義する。最後に情報システムの具体例として、交通情報システムをとりあげ、これをとおしてシステム構築に必要となる知識や技術について例示する。	情報化社会の中で情報技術者に課せられた課題について説明できる。 システムとORの全体概要を説明できる。 最短路問題、ISM、PERTの計算ができる。回帰分析と時系列予測の考え方を説明できる。 品質管理の方法と手順、待ち行列理論の基本的考え方、ゲーム理論の考え方を説明できる。 意思決定理論と情報の価値について説明できる。 情報システム構築に必要な知識と技術について例を示して説明できる。									
数理計画法II	まず数理計画法全体の構成とその意義についてごく簡単に要約する。その上で、整数計画法および非線形計画法などの最適化手法に重点をおいてその基礎的な理論と計算法について講義する。さらに遺伝的アルゴリズムやソフト最適化についてその基本的な考え方について解説する。計算法に重点をおくが、その計算法をとおして数理計画法の理論や考え方が理解できるように講義する。	数理計画法の意義と構成について説明できる。 線形計画法の要点を説明できる。 割当て問題や分枝限定法の計算ができる。 凸関数の判定ができる。最適性の条件を応用できる。 非線形最適化問題の基本的な解法を応用できる。 遺伝的アルゴリズムなどの初歩的な計算ができる。									
信頼性工学	通信、経済、福祉、医療、ライフライン関連などの情報システムは、市民生活や企業活動にとって不可欠で重要なサービスを提供しており、高い信頼性が要求される。一方、ユーザーは高信頼度で安全なハードウェア・ソフトウェアの製品を求めている。本科目では、信頼性の考え方と基礎理論を学び、安全で安心な情報システムの設計・管理に役立つ知識を身につける。また、情報技術者としてシステムの障害やトラブルに備え、緊急時に適切な対応策をとれるよう、リスクマネジメントと危機管理について理解を深める。	知識・理解の観点： 確率分布で表される信頼度関数、故障確率密度関数、故障率等の関係式を説明できる。 保水性・アベイラビリティ等の基本知識を身近な問題に適用できる。 システム信頼性の予測と配分、故障モード解析・故障の本解析の意味と手法を理解している。 情報システム設計や安全管理におけるリスク・マネジメントや危機管理の役割と手法を説明できる。 思考・判断の観点： 情報システムやライフラインシステムの信頼性を高める方法、福祉や医療サービスの安全管理や事故防止等に関する時事問題に対して、自分の意見や考えを文章にまとめ表現できる。 関心・意欲の観点： 信頼性、リスクマネジメントや安全性に関する課題について、自ら積極的に図書や文献を検索し、得られた知識を適切に取捨選択して要約し、それに対する自らの意見や提案をわかりやすい文章にまとめ、しっかりしたレポートを作成できる。									
情報と職業	情報化技術(Information Technology: IT)が社会をどのように変えてきたのか、それに伴いビジネスがどのような変化を遂げてきたのかについて学ぶ。さらに、今後、情報社会を生き抜いていく上で必要となるであろう、コンピュータやインターネットを活用して可能になった新しいビジネスについて学ぶ。	知識・理解の観点： 情報化により何がもたらされ、それにより社会全体がどのような変化を遂げたのかについて正しく理解する 思考・判断の観点： 情報技術の利便性と必要な社会的コストの関係について正しく理解する									
インターンシップ	興味ある業種の会社で働くという体験を通して、大学で学ぶことの目的を明確にし、また、就職活動する際の企業研究や業種選びに活かすことを目的とする。	授業の到達目標 関心・意欲の観点： インターンシップ企業での積極性、協調性 態度の観点： インターンシップ企業での勤務態度 その他の観点： インターンシップ企業での責任感									
知能情報システム工学特別講義											
MOT入門	専門職プログラムで開講するMOT(Management of Technology: 技術経営)科目の中から、一般の理工系大学生向けにMOTの概要を理解できるような内容のものを選んで講義を行う。	知識・理解の観点： MOTの概念を理解し、今日のわが国においてなぜそのような考え方が重要視されているのか、わが国の産業・企業活動の活性化のためにどのような方策が必要かを理解する。 思考・判断の観点： 理工系の学生にとって自分の専門分野の知識や技術を将来どのように生かしていくのかを主体的に考え、自らの立場において社会に役立つ技術の利用の仕方を判断できるようにする。 関心・意欲の観点： 技術を活用している産業・企業の実態、さらには社会の動きや今後の動向などに幅広く関心を持ち、自分の専門分野の知識・技術を活用していく方向性を考えるようにする。									

特許法	法律・規則等により支えられている特許法、実用新案法、意匠法、商標法に関する産業財産権法の概要を説明する。また、国内外における知的財産に関する状況を説明する。	知識・理解の観点： 1. 産業財産権法の概要を修得し、活用できる素地を身につける。 思考・判断の観点： 1. 国内外の特許制度の概要を説明できる。 2. 特許について、手続きの概要を理解し、特許性や抵触性の判断に関する基本的事項を考察できる。 関心・意欲の観点： 1. 知的財産の問題や情報に関心を持つ。									
職業指導	本授業は職業指導の基本的な考え方・事項と課題について説明する。	知識・理解の観点： 職業指導に関する基本的な事項と課題を説明できる。 思考・判断の観点： 職業指導に関する基本的な考え方について説明できる。									
GP項目別到達度判定方法(具体的に記述・箇条書き)											
総合的GP到達度判定方法(具体的に記述・箇条書き)											

例 卒業研究の達成度判定基準

発表内容に関する到達度判定	
判定する項目	判定

発表技法に関する到達度判定	
判定する項目	判定